

## インターバンクの声（2017年11月6日）

週末に発表された10月の米雇用統計は、失業率が約17年ぶりの低水準となったものの、非農業部門就業者数が市場予想を下回る増加にとどまり、賃金の伸びも弱かった。このため、発表直後の円相場は一時113円60銭台まで円買い・ドル売りが進んだ。

ただ、全体として雇用情勢の堅調さは維持されていると見直され、その後に発表された9月の米製造業受注や10月の米ISM非製造業景況指数が予想より上振れしたこともあって、ニューヨーク市場の午前中には114円40銭台までドルが上昇した。しかしながら、5月以降114円台中盤までドルが反発した際には、ことごとく上値が抑え込まれているとあって、この水準近くでは利食いのドル売りが入りやすくなっている。

また、週明けの日米首脳会談では貿易問題が話し合われると伝わっており、どうしてもドル買いには慎重になる。次期FRB議長人事も済み、今週の金融市場は少し動きづらくなりそうだが、トランプ大統領の動向とやけに静かな北朝鮮情勢を気にしながらのスタートになりそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。